

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 陽西 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国	180人	社会	180人	数学	181人
	理科	181人	英語	181人		

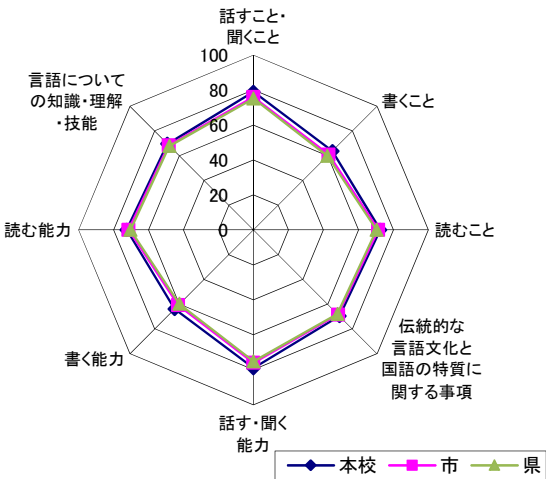
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	79.0	76.0	75.2
	書くこと	63.8	60.9	59.9
	読むこと	72.5	71.4	70.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.6	68.5	68.0
観点	話す・聞く能力	79.0	76.0	75.2
	書く能力	63.8	60.9	59.9
	読む能力	72.5	71.4	70.4
	言語についての知識・理解・技能	69.6	68.5	68.0



★指導の工夫と改善

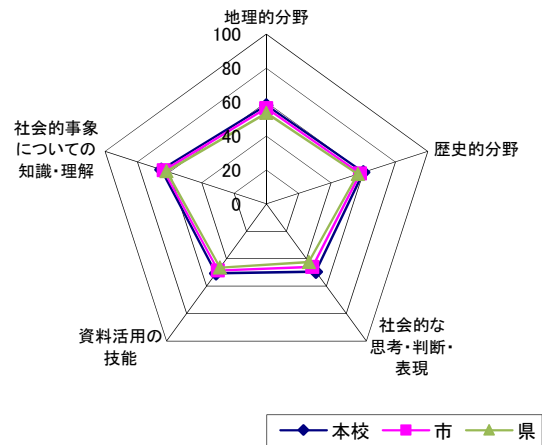
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○市の平均と比較して3.0%上回っており良好な状況である。 ○全ての設問において市の平均を上回っているが、特に、話を聞いて自分の共通点と相違点を整理する問題では、市の平均と比較して5.4%上回っており、聞き分けの力に優れている。	・朝会や話し合い活動などさまざまな機会を捉え、話を聞き取ったり、分かりやすく話したりということを意識させ、力を伸ばしていく。 ・説明的文章の範読や聞き取りCDなどの学習活動を通して、事実と意見や根拠を聞き分ける力をさらに伸ばしていく。
書くこと	○市の平均と比較して2.9%上回っており概ね良好な状況である。 ○話し合いの内容を参考に、提案することをまとめて書く問題では、市の平均と比較して6.5%上回っている。情報を整理し効果的にまとめる力がある。 ●メモを基に、活動報告書の見出しに合う言葉を書く問題では、市の平均と比較して0.3%下回っている。伝えたいことを明確に表現する力に課題がある。	・情報を収集・整理したり、構成を工夫したりする学習活動を引き続き行っていく。 ・意味段落ごとに内容に合った見出しを書くなどの学習活動を取り入れ、伝えたいことを明確に表現する力を身につけさせる。
読むこと	○市の平均と比較して1.1%上回っておりやや良好な状況である。 ○特徴的な表現をふまえて物語を読む問題では、市の平均と比較して4.7%上回っている。表現の描写に着目して内容を捉える力がある。 ●物語の展開や表現について自分の考えをもつ問題では、市の平均と比較して3.9%下回っている。自分の考えを記述する力に課題がある。	・情景描写などに注意しながら読む学習活動を今後も充実させる。 ・登場人物の言動や表情に関する表現に着目し、あらすじや登場人物の心情を捉え、それに対する自分の考えをもつという学習活動を充実させる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○市の平均と比較して1.1%上回っておりやや良好な状況である。 ○漢字の書き取り問題では、市の平均と比較して8.2%上回っているものもある。文脈の中で正しい漢字を書く力が身に付いている。 ●語句の文脈上の意味について辞書を使って調べる問題では、市の平均と比較して2.4%下回っている。文脈の中で適切な語句の意味を捉える力に課題がある。	・漢字の書き取りについては、引き続き小テストを繰り返して、基礎基本となる知識技能の定着を図る。 ・国語辞典を活用する授業を積極的に取り入れ、新出語句の学習などを通して、文脈の中で適切な語句の意味を捉える力を身につけさせ、語彙を豊かにする。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	58.1	56.4	53.5
	歴史的分野	60.0	58.0	56.6
	社会的な思考・判断・表現	49.5	46.1	42.5
	資料活用 of 技能	50.6	48.6	46.5
	社会的事象についての知識・理解	65.1	63.6	61.9



★指導の工夫と改善

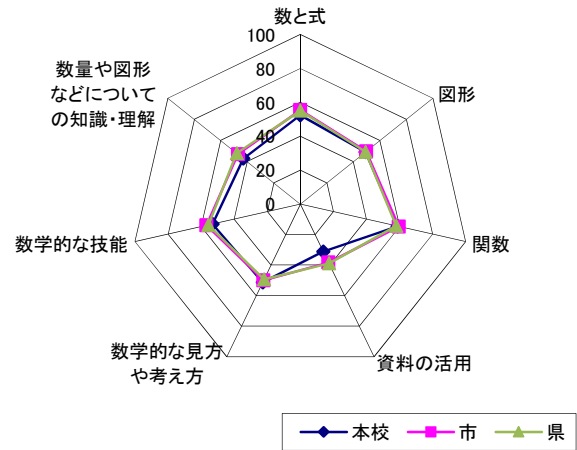
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○地理的分野では、市の正答率より1.7ポイント、県の正答率より4.6ポイント上回っており、おおむね良好である。ビデオ教材や地図、資料など視覚教材を効果的に使用しながら授業を行った成果であると考えられる。また、図やグラフなどを用いた資料から読み取る学習課題を取り入れながら、話し合う授業展開を行っている。これらの学習活動が、資料活用の技能の育成につながったと考えられる。 ●地球儀から位置を問う問題や宗教や気候の分布を問う問題など、知識をもとに資料と結びつける問題に課題が見られる。また、「変化が起こった理由」についてなど、資料から因果関係を考える社会的な思考・判断・表現の領域が弱いと考えられる。	・ビデオ教材や地図、資料など視覚教材を効果的に使用しながら授業を行った授業は一定の成果をあげているので、今後も継続していきたい。 ・分布を解答するなどの資料と知識と結びつける力が弱いので、地図帳や資料集を利用し、視覚的に理解が深められるようにする。 ・社会的な思考・判断・表現の領域が弱いので、この領域の力の育成を考えていきたい。 (1) 地図帳や資料集等を利用して、原因と結果、またその理由を考えさせる。 (2) 多面的多角的に捉えるために、グループ学習を実施し、思考力の育成を図る。 (3) (1)、(2)の結果、考えたことを自分の言葉で書かせ、表現力を高める。
歴史的分野	○歴史的分野では、市の正答率より2.0ポイント、県の正答率より3.4ポイント上回っており、おおむね良好である。 地理と同様で、ビデオ教材や史料など視覚教材を効果的に使用しながら授業を行った成果であると考えられる。また、年表や図、当時の史料などを用いた資料から読み取る学習課題を取り入れながら、話し合う授業展開を行っている。これらの学習活動が、資料活用の技能の育成につながったと考えられる。 ●「藤原氏の繁栄の様子を資料から考察する」問題や「会話文から図に整理する」問題に課題が見られる。また、年代の表し方や古代の知識を問う問題で正答率が、市、県よりも5ポイント以上下回っていたものがあつた。地理と同様、社会的な思考・判断・表現の領域が弱いことに加えて、1年次の内容の定着を図ることが課題である。	・ビデオ教材や地図、資料など視覚教材を効果的に使用しながら授業を行った授業は一定の成果をあげているので、今後も継続していきたい。 ・社会的な思考・判断・表現の領域が弱いので、この領域の力の育成を考えていきたい。 (1) 資料集等を利用して、原因と結果、またその理由を考えさせる。 (2) 時代を大観させ、時代の流れや外国との関係をつかませる。 (3) 多面的多角的に捉えるために、グループ学習を実施し、思考力の育成を図る。 (4) (1)、(2)、(3)の結果、考えたことを自分の言葉で書かせ、表現力を高める。 ・既習内容の定着を図るために、各単元の中で既習の各時代について触れるなど、社会的事象についての知識・理解の力を定着させたい。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	52.4	55.4	55.0
	図形	49.3	49.8	49.2
	関数	58.8	59.6	58.0
	資料の活用	31.1	38.3	38.9
観点	数学的な見方や考え方	51.2	50.0	49.3
	数学的な技能	53.1	56.7	55.7
	数量や図形などについての知識・理解	43.0	47.0	47.9



★指導の工夫と改善

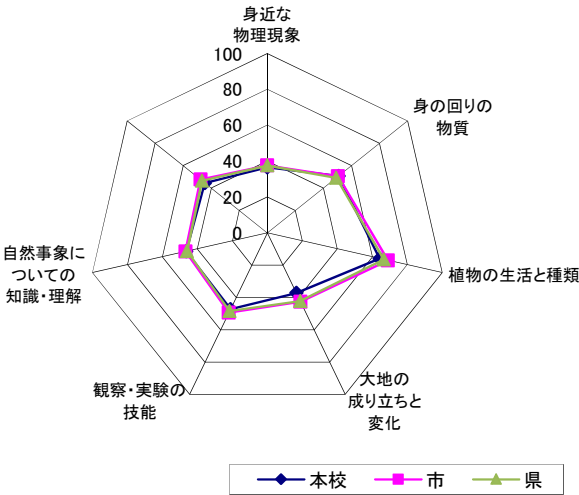
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○数量の関係を文字式に表わす問題の平均正答率は、県の正答率を2.8ポイント上回った。 ●この分類の平均正答率は、県の正答率より2.6ポイント、市の正答率より3.0ポイント下回った。特に、与えられた数の中から自然数をすべて選ぶ問題では、県の正答率を10ポイント下回った。	・この分類は、数学的な技能(計算力)を習得するところである。現在、陽西タイムを利用して計算テストを実施している。今後も、数学的な技能を伸ばすように実施していきたい。また、本学年の課題でもある数の概念と図や式を読み取る力は、今後の2年生の学習において、どの分類でも重要である。毎日の授業の中で、数量や図、式が「一体何を表しているのか」を考えさせ、その見方を養っていきたい。
図形	○直方体の辺の位置関係や、体積を比較する問題では、内容により差はあるが、1.8～7.1ポイント上回った。また、この分類の平均正答率は、県の正答率を0.1ポイント上回った。 ●この分類の平均正答率は、市の正答率より0.5ポイント下回った。特に、おうぎ形の面積を求める問題では、市の正答率を6.4ポイント下回った。	・2年生の図形の学習では、はじめて「証明」問題に取り組む。2つの図形を比べて「合同」という関係を導いていく論理的思考を育てるところである。図形に関する基礎的な知識をさらに積み上げ、その知識を活用する能力を育てたい。そのために、ICTを活用して図の見方を養っていききたい。
関数	○この分類の平均正答率は、県の正答率より0.8ポイント上回った。その中で、面積の数量関係を式で表す問題では、県の正答率より5.4ポイント上回った。 ●この分類の平均正答率は、市の正答率より0.8ポイント下回った。特に、座標の点を選ぶ問題では、市の正答率より3.7ポイント下回った。	・2年生で学習する「一次関数」は、1年生で学習した「比例」と関連性の深い関数である。1年生で学習した内容を復習しながら、イメージしやすい水槽や道のりなどの問題を取り上げ、2つの関数の関係性や式、グラフの見方や求め方を学習していきたい。また、演習問題などを繰り返し実施し、定着を図りたい。
資料の活用	○中央値を含む階級を答える問題では、平均正答率が5割を超えた。 ●この分類の平均正答率は、県の正答率より7.8ポイント、市の正答率より7.2ポイント下回った。	・近年の入試問題では、この分類の問題が多く出題されている。補助プリント(フォローアップシートなど)を利用して、基本的な資料の見方や見分け方に必要な基本的な知識を補充していきたい。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	36.5	37.6	37.5
	身の回りの物質	50.9	50.5	49.1
	植物の生活と種類	64.2	69.0	66.6
	大地の成り立ちと変化	37.2	42.7	42.2
観点	科学的な思考・表現	47.2	49.4	48.5
	観察・実験の技能	46.4	46.8	45.9
	自然事象についての知識・理解	44.5	47.6	46.5



★指導の工夫と改善

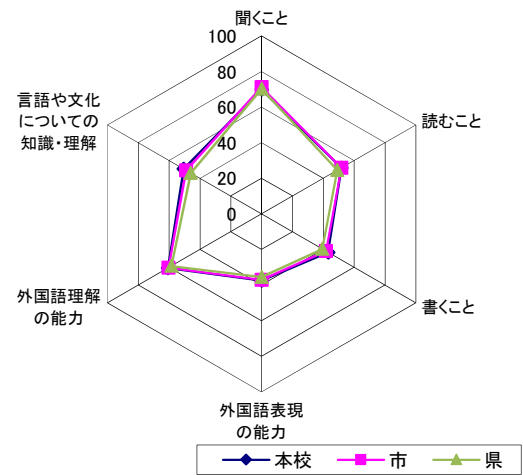
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	平均正答率は、県を1.0ポイント下回る。 ○物体が机を押す力の大きさを計算する問題は、県を6.2ポイント上回る正答率であった。現象を数値化して指導をして、練習問題を行った成果であると考えられる。 ●物体が机を押す力の表し方が分かるかを問う問題では、県を6.5ポイント下回り、表し方に課題が見られる。	・今後も日常生活に関連した現象を取り上げ、どのような現象かを言葉で話したり、図で表し説明したりできる力を育てるようにする。 ・2年生の電気分野についても、目に見えにくい電気の流れや磁石の力を工夫して可視化することで考えていく。また、電気量や電圧と電流の大きさなどを計算できるように、実験結果をもとに求め方を考え出し、計算問題演習を行う。
身の回りの物質	平均正答率は、県を1.8ポイント上回る。 ○水溶液の質量パーセント濃度を求める問題は、県を7.1ポイント上回る正答率であった。実験の結果をもとに、計算の仕方を指導して濃度を求める計算練習を行った成果であると考えられる。 ●ガスバーナーの適切な操作方法が分かるかを問う問題では、県を4.3ポイント下回り、操作に課題が見られる。	・今後も日常生活に関連した題材を取り上げ、課題を見つけ解決する方法を考え実験・観察を行い、問題解決する力を育てるようにする。また、実験器具の使い方を丁寧に説明して、器具を正確に使いこなすことができるようにする。 ・2年生の化学変化の指導では、1年生での学習の復習を取り入れながら、つながりを大切にした指導を工夫する。
植物の生活と種類	平均正答率は、県を2.4ポイント下回る。 ○図を基に、植物のなかまの名称が分かる問題では、平均正答率が82.9ポイントと、高い正答率であった。 ●双子葉類における葉脈、根、茎の断面の特徴が分かるかを問う問題では、県を2.4ポイント下回り、植物の維管束についての理解に課題が見られる。	・今後も植物・動物の生命、体のつくりや機能の美しさやすばらしさを伝え、感動する心を育てるようにする。 ・2年生の動物分野の指導では、多様多種の動物の特徴に応じた分類や進化の過程について指導を工夫する。また、人の消化器官や呼吸の仕方、筋肉の動きや神経、血液循環など、知識を積み上げ、学習の指導を工夫する。
大地の成り立ちと変化	平均正答率は、県を5.0ポイント下回る。 ○地震速報発表後にS波が到着するまでの時間が分かるかを問う問題では県3.4ポイント上回る正答率であった。地震の2種類の波の関連について指導した成果であると考えられる。 ●地層ができた時代を推定できる化石の名称が分かるかを問う問題では、県を14.4ポイント下回り、知識理解に課題が見られる。	・今後も身近な自然現象を取り上げ、自然における興味・関心や、自然災害への問題意識を高め、自然の有効活用について考えさせていく。 ・2年生の天気分野の指導では、身近な天気予報や風や気温の変化などについて学習の指導を工夫する。また、知識を積み上げていくことができるように、図や写真を活用したり、日常生活と関連させたり、繰り返し学習したりするなど工夫する。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	69.9	71.1	70.2
	読むこと	51.7	51.8	49.1
	書くこと	43.2	41.8	39.4
観点	外国語表現の能力	37.5	37.1	35.5
	外国語理解の能力	60.8	60.4	58.5
	言語や文化についての知識・理解	50.6	49.0	46.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は市の平均よりも1.2ポイント下回っている。 ○単文や疑問文を聞き取って適するものを選ぶ問題は、市の平均とほぼ同じかやや高く、概ね良好な状態である。 ●まとまりのある英文を聞いた後で質問に対して適するものを選ぶ問題では、市の平均より5.1ポイント下回っている。	・まとまった英文を聞き取り、内容を的確に把握する力をつけるため、単元末テストや定期テストの対策時のみでなく、普段の授業においても、まとまった英文を聞き取る練習を取り入れる。教師、ALT、CDなど様々な音声の英語に慣れることができるよう、音声のインプットを多くしていく。
読むこと	平均正答率は市の平均よりも0.1ポイント下回っている。 ○文法の理解を問う問題と新聞記事を読み取る問題では、県と市両方の平均を大きく上回っている。 ●スポーツディについての英語の案内や長文を読み取る問題、また語順の理解を問う問題では、いずれも市の平均をやや下回っている。	・様々な種類の英文を読解する力をつけるため、教科書の本文以外にもまとまった英文に触れる機会を設けるようにする。 ・要点をおさえながら効率よく英文を読むことができるようにするため、時間を計って長文読解をするなどの工夫を取り入れる。 ・英文を読むための基礎となる単語力を向上させるため、帯学習などを工夫して、スパイラルな学習ができる仕組みを工夫する。
書くこと	平均正答率は市の平均よりも1.4ポイント上回っている。 ○場面や状況に応じた英文を書く問題では、県の平均を8.5ポイント、市の平均を6.4ポイントと大きく上回っている。 ●メールに対して3文以上の英文で返信する問題では、県や市の平均をやや下回っている。	・場面に応じて英文を作ることができるようにするため、言語材料の導入時や活用時の場面設定を明確にし、自己表現活動を意図的に取り入れていく。1文だけでなく、まとまった量の英文を書く力を身につけられるよう、生徒が興味をもって取り組めるテーマに沿ってスキットを作ったり、英作文をしたりする活動を取り入れていく。

宇都宮市立陽西中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家の人と将来のことについて話すことがある」と回答した生徒の割合は75.8%で、市の平均より6.7ポイント、県の平均より9.9ポイント高く、3年間を見通し計画的に進めているキャリア教育の成果が表れていると考えられる。生徒が自分の特性を理解し、適切な進路情報をもとに将来の夢を語り、目標の実現に向けて努力する態度を育てていきたい。

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」と回答した生徒の割合は71.1%で、市の平均より6.8ポイント、県平均より8.1ポイント高い。今後も教師の一人一授業による授業研究を通し授業力の向上を図るとともに、生徒の学ぶ意欲を高める魅力ある授業の実践に取り組んでいきたい。

○授業で扱うノートには、学習の目標(ねらいとまとめ)を書いている」と回答した生徒の割合は88.6%で、市の平均より10.1ポイント高い。基礎学力充実のため、授業のねらいを明確化し、振り返りの時間を確保するような指導を職員全体で共通理解し実施してきたが、今後も実践に努めていきたい。

●「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と答えた割合や、家庭学習の計画を立てたりテストの間直しをしたりするなどの家庭学習についても市や県の平均を上回っている。しかしながら生徒によって家庭学習に対する意欲に差があるため、自学ノートのさらなる活用など家庭学習の習慣化を今後も進めていきたい。

●「学校の宿題はやりたくない内容だ」という肯定的回答が、県平均より11.9ポイント、市平均より9.7ポイント下回ったことから、家庭学習の必要性を理解させつつも、生徒の学習意欲を刺激するものや興味を抱く内容なども取り入れるなどの工夫をしていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高め、学力向上を目指した指導の充実	基礎学力の定着を図るため、帰りの会終了後の10分間、「陽西タイム」としドリル学習を、本年度も継続実施している。また、「学力向上の日」として水曜日には、朝の学習を30分、放課後は「レベルアップ学習」として1時間程度、希望者に対する「学習する場」の提供も継続している。夏季休業中も7日間の「学習サポート」を実施し、1教科で複数コースの設定をするなど生徒の学力に配慮し指導に当たった。今年度も希望者を対象に、地域協議会と学校の共催で月に1～2回「土曜学習サポート」を実施している。 また、一人一授業の実施や職員研修の充実を図り、教員一人一人が日々、授業力の向上に努めている。	「授業を集中して受けている」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は9割あり、「疑問や不思議に思うことは分かるまで調べたい」には7割以上の生徒が肯定的に回答し、県の平均を8ポイント以上上回っている。また「授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる」にも、7割以上の生徒が肯定的に回答し、県の平均を3ポイント以上上回り、意欲を持って授業に取り組む姿が見られる。「できた」という成功体験の積み重ねや、自己肯定感を高める指導の充実が学習意欲や学力の向上につながったと考えられる。 「授業で扱うノートには学習の目標とまとめを書いている」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は9割近くあり、県の平均を10ポイント以上上回っている。日々の授業での「本時のねらい」と「本時のまとめ」の徹底が生徒にも浸透してきている。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	年度初めに、家庭学習の仕方・自主学習ノートの取組についての資料を全生徒に配付し、再度徹底を図った。毎日提出を原則とし、その後の指導に生かしている。	「家で学校や塾の決められた宿題の他に、自分で考えた勉強をしている」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は7割近くあり、県の平均を7ポイント以上上回っている。「家でテストでまちがえた問題について勉強をしている」と答えた生徒も7割以上おり、県の平均を6ポイント上回っている。自学ノートの定着が見られた。